

(発表資料)

2025年 2月5日  
公益財団法人 放送文化基金

## 2024 年度助成対象(技術開発部門/人文社会部門/イベント事業部門【後期】)の 決定と贈呈式の開催について

### (1) 放送文化基金 2024 年度の助成対象決定 (技術開発部門、人文社会部門、イベント事業部門【後期】)

今回の申請は、技術開発 23 件、人文社会 37 件、イベント事業（後期）30 件の合わせて 90 件でした。審査の結果、採択された件数は、技術開発 8 件、人文社会 15 件、イベント事業（後期）13 件の合わせて 36 件。助成金額は、それぞれ技術開発に 2,399 万円、人文社会に 1,116 万円、イベント事業（後期）が 2,220 万円となりました。

7 月に決定したイベント事業（前期）5 件、1,170 万円と合わせて、総額 6,905 万円となりました。

助成対象に決まったプロジェクトは、技術開発部門と人文社会部門は今年 4 月から来年 3 月までの 1 年間、イベント事業部門【後期】は今年 3 月から来年 2 月までの 1 年間に各プロジェクトを実施し、報告をまとめることとなります。

### (2) 贈呈式と成果報告会の開催

助成金贈呈式は、3 月 7 日（金）午後 4 時 45 分より東京・平河町のホテルルポール麹町 2F「ルビー」で開催します。

また、贈呈式に先立って、2F「サファイア」で午後 3 時より成果報告会を開催し、過去に助成したプロジェクトの中から技術開発部門と人文社会部門で各 1 件とイベント事業部門（前期）で採択された 2 件について成果報告をしていただきます。

公益財団法人 放送文化基金  
(担当) <sup>ねばし</sup>根橋、<sup>まごし</sup>馬越、<sup>かい</sup>甲斐  
〒150-0047 東京都渋谷区神山町 9-6  
TEL 03-5738-7151

## 2024 年度助成〔技術開発〕

| テーマ                                      | 申請者                           | 助成金額<br>(万円) |
|--|-------------------------------|--------------|
| UHD ディスプレイを指向したフルカラー狭帯域発光有機 EL の開発       | 九州大学高等研究院<br>教授 安田 琢磨         | 375          |
| 12GHz 帯衛星放送システムを利用したポータブルラジオ端末用小形アンテナの研究 | 横浜国立大学大学院工学研究院<br>准教授 久我 宣裕   | 400          |
| スケーラブル符号化における高効率レイヤ間符号化モード決定方式           | 東京農工大学大学院工学研究院<br>教授 岩崎 裕江    | 176          |
| 超小型 3 波長オーロラ計測カメラシステムの開発                 | 国立極地研究所<br>准教授 片岡 龍峰          | 300          |
| 動物体を排除した仮想化現実空間の構築に基づく隠消現実の実現            | 大阪工業大学情報科学部<br>准教授 河合 紀彦      | 388          |
| 愛されるコンパニオンロボットの非言語的振る舞いのパターン             | 東京都市大学デザイン・データ科学部<br>教授 市野 順子 | 200          |
| 災害報道を自己と関連づけて理解するための基盤となる神経機構            | 京都大学大学院人間・環境学研究科<br>教授 月浦 崇   | 400          |
| 映像視聴時の瞳孔径変動と情動の関連性に関する基礎解析               | 秋田大学大学院理工学研究科<br>教授 石沢 千佳子    | 160          |

## 2024 年度助成 [人文社会]

| テーマ  | 申請者   | 助成金額<br>(万円) |
|--|---|--------------|
| 日本の若年世代の放送ジャーナリズムに対する意識の社会学的研究                                   | 金沢大学人間社会研究域人文学系<br>教授 轟 亮                           | 50           |
| フィルターバブルに挑むラジオ制作教育～学生の情報行動変容の検証                                  | 「メディア実践と教育」研究会<br>代表 濱口 英雄<br>(立命館大学衣笠総合研究機構 客員研究員) | 71           |
| スポーツ実況におけるリプレイが持つ言説的機能の研究  | スポーツキャスティング研究会<br>代表 酒井 信一郎<br>(立教大学 兼任講師)          | 61           |
| 深夜番組の通史的研究 ―テレビと時間・都市空間の社会学―                                     | 立命館大学大学院社会学研究科<br>博士後期課程 今城 和香                      | 40           |
| 参与観察・インタビュー調査による日韓国際ニュース放送の研究                                    | 日韓トランスナショナルジャーナリズム研究会<br>代表 鈴木 弘貴<br>(聖心女子大学 教授)    | 110          |
| NHK と BBC のインターネット配信導入に関する比較研究：ストリーミング時代における公共放送としての NHK の役割への影響 | 国際基督教大学教養学部<br>助教 Tse Yu-Kei                        | 100          |
| AI による放送コンテンツの制作と配信をめぐる法的・倫理的課題の解決に向けた調査研究                       | 豊橋技術科学大学総合教育院<br>准教授 蔡 万里                           | 90           |
| 1930 年代のラジオ放送と南米行き移民をめぐる広報メディアの研究                                | 国際日本文化研究センター<br>特定研究員 根川 幸男                         | 49           |
| 平和構築に向けたラジオ放送の役割に関する研究：韓国 KBS と台湾中央広播電台の調査・分析を中心に                | 「平和のためのラジオ放送」研究会<br>代表 小林 聡明<br>(日本大学 教授)           | 106          |
| 安部公房のラジオドラマに関する研究  | 一橋大学大学院言語社会研究科<br>博士後期課程 納谷 耕世                      | 40           |

| テーマ   | 申請者   | 助成金額<br>(万円) |
|---|---|--------------|
| ラジオ番組「ABC こどもの歌」にみる新しい<br>子どもの歌とその功績              | ノートルダム清心女子大学人間生活学部<br>准教授 葉口 英子                                       | 60           |
| 放送の地域格差からみるアニメファンの経験                              | 立命館大学産業社会学部<br>准教授 近藤 和都  | 67           |
| 日本のアニメ業界における女性制作者の労<br>働・職位と少年向け作品の女性表象に関する研<br>究 | Women in Japanese Animation (WIJA) 研究会<br>代表 須川 亜紀子<br>(横浜国立大学大学院 教授) | 85           |
| 放送業界におけるジェンダー平等に関する実<br>態調査 2025                  | GCN (ジェンダーとコミュニケーションネット<br>ワーク)<br>共同代表 四方 由美<br>(宮崎公立大学 教授)          | 140          |
| 1960-70 年代女性週刊誌の歌番組記事のジェン<br>ダー分析                 | 国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究<br>科<br>博士後期課程 加藤 穂香                            | 47           |

## 2024 年度助成 [イベント事業 (後期)]

| テーマ  | 申請者  | 助成金額<br>(万円) |
|--|--|--------------|
| 大阪・関西万博 災害映像の教訓を未来につなぐイベント・国際シンポジウム                          | 大阪・関西万博 防災の未来設計図プロジェクト<br>プロデューサー 木戸 崇之<br>(エー・ビー・シー リブラ ビジネス開発部長)       | 200          |
| GMMP2025 から学ぶメディアの中の多様性と課題：国際セミナーとフォーラム                      | FCT メディア・リテラシー研究所 GMMP プロジェクト<br>プロジェクトコーディネーター 高橋 恭子<br>(早稲田大学 教授)      | 90           |
| 視聴覚障害鑑賞サポート・LGBTQ＋支援施策に取り組む音楽イベント                            | 「音楽・社会・人」をつなげる音楽イベント『Grooving Night』<br>プロデューサー 門上 由佳<br>(読売テレビ プロデューサー) | 200          |
| 放送の未来を担う人材育成・交流事業  | 地方の映像クリエイター育成実行委員会<br>実行委員長 森内 真人<br>(青森放送 常務取締役制作局長)                    | 150          |
| 若者とメディアは戦争をどう伝えるかを考えるワークショップ                                 | 戦争と平和語り継ぐワークショップ実行委員会<br>委員長 軸屋 忍<br>(鹿児島放送 代表取締役社長)                     | 150          |
| 急速に変化するメディア市場において、日本の映像コンテンツを国際的に発信するための実践的ノウハウを提供する ワークショップ | WIDE 実行委員会<br>委員 中尾 佐知子<br>(グローバル・コンテンツ・アソシエーション)                        | 200          |
| 報道実務家フォーラム 2025 及びそれに関連する一連の研修イベント                           | 報道実務家フォーラム<br>理事長 瀬川 至朗<br>(早稲田大学 教授)                                    | 100          |
| 地域ジャーナリズムにおけるデータ報道・OSINT の推進                                 | 地域ジャーナリズムデータ報道・OSINT 推進グループ<br>坂本 信博<br>(西日本新聞社 総合デスク)                   | 150          |
| 災害から命を守る放送とは？～NHK 民放 6 局防災勉強会～                               | NHK 民放 6 局防災プロジェクト<br>浜野 高宏<br>(NHK エンタープライズ プロデューサー)                    | 200          |
| 「放送作家の番組証言アーカイブ」の構築および「放送番組を振り返るイベント」の開催                     | 放送作家の証言プロジェクト<br>プロジェクト長 さらだ たまこ<br>(日本脚本家連盟)                            | 50           |

| テーマ                            | 申請者   | 助成金額<br>(万円) |
|--------------------------------|---|--------------|
| 脚本・台本の収集保存および「デジタル脚本ミュージアム」の活用 | 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム<br>代表理事 池端 俊策                               | 200          |
| ABU Kids 2025                  | アジア・太平洋放送連合（ABU）<br>番組局長 長畑 靖成                                  | 180          |
| 日韓中テレビ制作者フォーラム2025（日本開催）       | 日韓中テレビ制作者フォーラム2025 実行委員会<br>事務局長 村田 慎一郎<br>(全日本テレビ番組製作社連盟 事務局長) | 350          |

# 放送文化基金 成果報告会

2025年3月7日(金) 14:30開場、15:00開会 ホテルルポール麹町 2F「サファイア」

## <プログラム>

|             |  |
|-------------|--|
| 15:00~15:05 | 開会挨拶 放送文化基金 理事長 濱田 純一  |
| 15:05~15:30 | <b>報告① 技術開発部門 (2022、2023 年度助成)</b><br><b>『マイクロ波帯 FPU 用 SC-FDE 無線伝送方式』</b><br>福井工業高等専門学校電気電子工学科<br>教授 濱住 啓之 氏<br>マイクロ波帯シングルキャリア方式 FPU (Field Pick-Up Unit) は、映像・音声を無線で伝送できる撮影機材である。お天気カメラやヘリコプター中継、ワイヤレスカメラなど放送番組中継に幅広く利用されている。平成9年に電波産業会で無線方式が規格化 (ARIB STD-B11) されて以来 28 年が経過しており、最新技術を導入して高度化することで、よりいっそう機動性に優れた FPU が実現できる時代になっている。送信機の小型化・低消費電力化が可能なシングルキャリア方式の特長を生かしつつ、移動送信も可能とするマイクロ波帯 FPU 用 SC-FDE (Single Carrier - Frequency Domain Equalization) 方式を検討した結果を報告する。 |
| 15:30~15:55 | <b>報告② 人文社会部門 (2022 年度助成)</b><br><b>『国際放送とコスモポリタンな文化・都市—カタールの事例から』</b><br>京都産業大学国際関係学部<br>准教授 千葉 悠志 氏<br>アラビア半島の東岸に位置するカタールのメディアとえば、国際放送局のアルジャジーラの名前が真っ先に思い浮かぶに違いない。ただし、最近では、アルジャジーラだけでなく、スポーツ放送局の beIN が、世界的なメディア・ネットワークとして台頭したり、またハイレベルなメディア・ジャーナリズムの研究・教育拠点が国内に誘致されたりするなど、アルジャジーラ以外にも興味深い動きが色々と見られる。本報告では、カタールのメディアをめぐる現状を広く概観するとともに、国際的な放送局や世界水準の研究・教育の拠点が次々と生み出される背景には、どのような要因があるのかを考えてみたい。   |
| 15:55~16:05 | 休 憩  |
| 16:05~16:15 | <b>報告③ イベント事業部門 (2024 年度前期助成)</b><br><b>『北海道ドキュメンタリーワークショップが生まれた理由、必要な理由』</b><br>「北海道ドキュメンタリーワークショップ」実行委員会<br>委員長 山崎 裕侍 氏 (北海道放送)<br>民放・NHK の局の壁を越えてドキュメンタリー制作を学ぶ北海道ドキュメンタリーワークショップ。去年9月に第1回を開催し、計6回を予定。多彩な講師を呼び、職種も関係なく入社1年目の新人から大ベテランまで参加し、熱い議論を交わす。ドキュメンタリーを求める声がなぜ上がっているのか。その先に将来があるのか。  |
| 16:15~16:25 | <b>報告④ イベント事業部門 (2024 年度前期助成)</b><br><b>『喫茶らじお～おしゃべりがつなぐ、まちとひと～』</b><br>喫茶らじお実行委員会<br>ディレクター 高橋 紘子 氏 (新潟放送)<br>新潟県阿賀町の遊休施設で月に一度オープンするカフェ。その名も「喫茶らじお」。パーソナリティがマスターとなり、珈琲をふるまいながら住民とおしゃべりに花を咲かせる。まちに暮らす人、関わる人にとってのコミュニケーションプレイス (居場所) を作りながら、オーディオコンテンツを配信。そこから聴こえてきたものとは…   |
| 16:45~      | 助成金贈呈式 (関係者のみ)   |

※成果報告会は、2024 年度助成金贈呈式の第 1 部として開催し、第 2 部贈呈式は関係者のみで行います。

◆参加申し込み◆ 締切 3月5日(水)  
 どなたでもご参加いただけます。参加費は無料です。  
 放送文化基金のホームページまたはQRコードからお申し込みください。



参加申込みはこちら

### <お問い合わせ先>

放送文化基金  
 〒150-0047 渋谷区神山町 9-6  
 Tel: (03)5738-7151  
 担当／根橋、馬越、甲斐

首都高速道路 霞ヶ関ランプよりお車で約 5 分  
東京駅よりお車で約 10 分  
※駐車場  
基本駐車料金 440 円 / 20 分 (税込)  
高さ 2.3m